

外語大の先生の新刊棚

二〇二三年に出版された外語大の先生の著
編訳書から、先生のお名前の五十音順で、
主なものを紹介します。敬称略。
※書名／著編訳者名／出版社名／刊行月／
本体価格 (編集部)

◆青木雅浩

『アジア人物史 第一〇巻 民族解放の夢』 姜尚
中総監修 青山享ほか編 集英社 三月 四〇〇〇円

古代から二一世紀までを展望するアジア通
史シリーズに、モンゴルについて寄稿。ほ
か六月に『中央ユーラシア文化事典』(丸善
出版)を分担執筆。

◆青山弘之

『戦火の中のオタクたち』 青山弘之監修 天川まなる
マンガ 條支ヤールセル文 晶文社 一月 一六〇〇円

シリアのオタクたちのアニメ・マンガ事情
から、知られざるアラブ世界の一面を伝え
るルポマンガ&エッセイ。

◆荒原邦博

『レルトワールⅢ 1968』 ミシェル・ビュー
トル著 石橋正孝監訳 三ツ堀広一郎 堀谷子、中野

善出版)に寄稿。

◆小田原琳

『歴史学入門—だれにでもひらかれた14講』 前
川一郎編 昭和堂 八月 二四〇〇円

誰もが歴史を楽しむために歴史学をどう活
かすか、ジェンダーの視点から分担執筆。
ほか六月に『論点・ジェンダー史学』(ミネ
ルヴァ書房)に寄稿、一〇月『共感の共同
体—感情史の世界をひらく』(平凡社)を
分担執筆。

◆小野寺拓也

『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』 小
野寺拓也、田野大輔著 岩波書店 七月 八二〇円

ナチスの功績とされがちな事象をとりあげ、
ナチズム研究の蓄積をもとに事実性や文脈
を検証する。ほか九月に編著『悪の凡庸さ
を問い直す』(大月書店)を刊行。

◆風間伸次郎

『バズルで解く世界の言語—言語学オリンピック
クへの招待』 風間伸次郎監修 国際言語学オリンピッ
ク日本委員会著 研究社 六月 一六〇〇円

謎解き感覚で言語バズルを楽しみながら、
観察力や論理的思考を鍛える。ほか四月に
『しゃべるヒト—ことばの不思議を科学す
る』(文理閣)に寄稿。

芳彦ほか訳 幻戯書房 一月 五六〇〇円

文芸と美術を自在に旋回する、アクロバ
ティックな創作に批評の饗宴を共訳。ほか
二月に『Maireux vu du Japon: Roman,
essai et arts. (Classiques Garnier)』を分
担執筆。

◆飯塚正人

『岩波講座 世界歴史 第二二巻 二つの大戦と
帝国主義Ⅱ 二〇世紀前半』 永原陽子、吉澤誠一郎
責任編集 岩波書店 二月 三二〇〇円

二つの大戦をはさんだ世界史の連続性と非
連続性を考える本書に、イスラーム主義に
ついて分担執筆。ほか三月に『イスラーム
の内と外から—鎌田繁先生古稀記念論文
集』(ナカニシヤ出版)に寄稿。

◆石川博樹

『黒人の歴史—三〇万年の物語』 ネマター・ブラ
イデンほか著 石川博樹監訳 沢田博訳 河出書房新
社 七月 五四〇〇円

人類の誕生からブラック・ライヴズ・マター
まで、アフリカ大陸から始まる黒人たちの
誇りと抵抗と闘いの歴史を、地図や図版を
駆使して描く。

◆李奎台

『韓国留學生はいかにキャリアを形成していく

◆川本智史

『岩波講座 世界歴史 第二三巻 西アジア・南
アジアの帝国 一六〜一八世紀』 林佳世子責任編
集 岩波書店 一月 三二〇〇円

三つの帝国の統治システムにより、独自の
近世を歩んだ西アジア・南アジアを描き出
す本書にコラムを寄稿。

◆河合香史

『新・方法序説—人類社会の進化に迫る認識と
方法』 河合香史、竹ノ下祐二、大村敬一編 一二月
京都大学学術出版会 三九〇〇円

学際研究を組織する方法論作りに向けた研
究書。ほか二月に『Extremes: The
Evolution of Human Sociality. (京都
大学学術出版会)』を編著、二月『人新世』
時代の文化人類学の挑戦—よみがえる対
話の力』(以文社)に共著論文を寄稿。

◆神田惟・八木久美子・吉枝絵子

『イスラーム文化事典』 イスラーム文化事典編集委
員会編 丸善出版 一月 二七〇〇〇円

世界各地・各分野のイスラーム研究者がイ
スラーム文化を描出する本書に寄稿。

◆金悠進

『ポピュラー音楽と現代政治—インドネシア
自立と依存の文化実践』 金悠進著 京都大学学術出

か—日本留学における役割意識の変容を中心
に』 李奎台著 風間書房 二月 六〇〇〇円

韓国人留學生に、キャリアについての悩み
や葛藤などをインタビュー。

◆伊東剛史

『共感の共同体—感情史の世界をひらく』 伊東
剛史、森田直子編 平凡社 一〇月 六五〇〇円

日本での感情史研究の最前線を走る研究者
らによる「共感」をテーマとした研究実践
の論集。

◆大島由香子

『改革が作ったアメリカ—初期アメリカ研究の
展開』 佐々問みかよ、橋川健竜、増井志津代、小倉い
ずみ編著 小島遊書房 三月 三四〇〇円

文学、宗教、歴史、文化などの多角的な論
考とエッセイから、学際的なアプローチで
初期アメリカ研究を更新する本書に、子育
てについて寄稿。

◆小倉智史

『君主号と歴史世界』 佐川英治編 山川出版社 一〇
月 四二〇〇円

君主号の重層性や多義性を検証する論考集
に「ストラトラーナ致—神の鎧か西夷の号
か」を寄稿。一月『イスラーム文化事典』(丸

版会 三月 三六〇〇円

二〇一九年の「音楽実践法案」の顛末を軸
に分析。ほか三月に『クリティカルワールド
ポピュラー音楽—「聴く」を広げる・更
新する』(フィルムアート社)を分担執筆。

◆日下涉

『現代フィリピン在地変動—新自由主義の深
化・政治制度の近代化・親密性の歪み』 原民樹、
西尾善太、白石奈津子、日下涉編著 花伝社 三月
二〇〇〇円

「つながりで貧困を生き抜く社会」から変容
し、新自由主義に飲み込まれる現代フィリ
ピンを、フィールド調査から多面的に描き
出す。

◆黒木英充

『イスラームからつなぐ—イスラーム信頼学
へのいざない』 黒木英充、後藤絵美編 東京大学出
版会 三月 三八〇〇円

イスラーム的コネクティブティに基づいた
信頼構築とはいかなるものか、視座を提示
する。

◆後藤絵美

『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ 五
記憶と記録にみる女性たちと百年』 長沢英治監修
岡真理、後藤絵美編著 明石書店 三月 二五〇〇円

公正な社会を求め格闘する女性たちと、装いに映し出される社会のありようなどを示す。ほか六月『憧れの感情史——アジアの近代と（新しい女性）』（作品社）を分担執筆、七月『シエルフ・ライフ——カイロで革新的な書店を愛し育て、苦悩した記録』（G. B.）を翻訳、九月『東大塾 現代イスラーム講義』（東京大学出版会）を共編など多数。

◆小松由美
『マインドフルな先生 マインドフルな学校』ケビン・ホーキンス著 伊藤靖、菅谷道子訳 金剛出版 花伝社 三月 三二〇〇円

学校にマインドフルネスを取り入れるために、教師が仕事も私生活も充実させるためのセルフケアを説く実用書を分担翻訳。

◆椎野若菜
『家族社会学事典』日本家族社会学会編 丸善出版 一二月 二四〇〇円

家族社会学の蓄積された研究成果から将来的な研究課題までをまとめた中項目事典を分担執筆。ほか六月に『論点・ジェンダー史学』（ミネルヴァ書房）に寄稿。

◆篠田英朗
『戦争の地政学』篠田英朗著 講談社現代新書 三月 九〇〇円

一九二〇年代から三〇年代にマルクス派を二分した「日本資本主義論争」を再考する本書に分担執筆。ほか六月に『現代バスケットを知るための60章 第二版』（明石書店）に寄稿。

◆中山智香子
『大人のためのお金学』中山智香子著 NHK出版 七月 七〇〇円

資本主義の暴走で生まれた「お金主義」とは。その歴史をたどりながら、市場、資本、投資などの必須知識を身につける。

◆中山俊秀
『しゃべるトト——ことばの不思議を科学する』菊澤律子、吉岡乾編著 四月 文理閣 二九八〇円

世界に約七〇〇〇あると言われる言語についての科学の成果を新しい視点で紹介する本書に寄稿。

◆西原大輔
『近代日本文学・美術と植民地』西原大輔著 七月 堂 一二月 四五〇〇円

文学者や美術家は植民地といかに関わったのかを一七本の論考から描出する。ほか九月に『二冊で読む日本の近代詩500』（笠間書院）を編集。

地理的条件は世界をいかに動かしてきたのか。一七世紀ヨーロッパからロシア・ウクライナ戦争まで、約五〇〇年間の戦争の構造を見る。

◆篠原琢
『岩波講座 世界歴史 第二巻 二つの大戦と帝国主義Ⅱ 二〇世紀前半』永原陽子、吉澤誠一郎責任編集 岩波書店 二月 三二〇〇円

中央ヨーロッパについて分担執筆。一月『ハプスブルク事典』（丸善出版）に寄稿。

◆谷口龍子
『日本語複合動詞活用辞典』姫野昌子監修 柏崎雅世、田山のり子編集代表 研究社 八月 九〇〇〇円

日本語学習者が特につまずきやすい複合動詞三五四七語を取り上げた、日本語教育現場で使える辞典を分担執筆。

◆千葉敏之
『歴史の転換期 五 1348年——気候不順と生存危機』千葉敏之編 山川出版社 七月 三三〇〇円

ユーラシア大陸全域が寒冷化した一三三八年前後、人々は気候不順に由来する生存危機をいかに認識し、克服を試みたのか。その成否を含めて論じる。

◆野元裕樹
『Discourse Particles in Asian Languages.』Elin McCready, Hiroki Nonono 編 Routledge 八月

アジア諸言語における談話小辞に関する二巻の論文集。第一巻は東アジアの言語、第二巻は東南アジアの言語。

◆野平宗弘
『Reading South Vietnam's Writers: The Reception of Western Thought in Journalism and Literature.』Thomas Engelbert, Chi P. Pham 編 Springer 七月

ベトナムの文学者やジャーナリストが西洋の思想からどのような影響を受けたのかを検証する本書に分担執筆。

◆萩尾生
『現代バスケットを知るための60章 第二版』萩尾生、吉田浩美編著 明石書店 六月 二〇〇〇円

独特の言語や文化が注目されてきたバスケット地方。重要事象を増補し、情報更新を図った。

◆林佳世子
『岩波講座 世界歴史』全二四巻 荒川正晴、大黒俊二、小川幸司、木畑洋一、富谷至、中野聡、永原陽子、林佳世子、弘末雅士、安村直己、吉澤誠一郎編集 岩波書店 各三三〇〇円

◆趙義成
『訓民正音』趙義成訳注 平凡社ライブラリー 二月 一七〇〇円

世宗によるハンゲル創製の布告「訓民正音」の原文、訓読、現代語訳、訳注、解説など。

◆コースイット・ティップティエンボン
『超入門！書いて覚えるタイ語ドリル』コースイット・ティップティエンボン著 ナツメ社 六月 二〇〇〇円

文字や発音、基本フレーズなど、書き込み練習をしながらタイ語の基礎をマスター。

◆外川昌彦
『岡倉天心とインド——「アジアは一つ」が生まれるまで』外川昌彦著 慶応義塾大学出版会 四月 三六〇〇円

美術史家岡倉天心の一九〇二年のインド訪問を、宗教改革運動家スワームィー・ヴィヴェーカーナンドとの思想的交流を通して検証する。一月『イスラーム文化事典』（丸善出版）に寄稿。

◆友常勉
『「論争」の文体——日本資本主義と統治装置』法政大学大原社会問題研究所 長原豊、ギャザイン・ウォーカー編著 法政大学出版局 三月 四八〇〇円

編集委員を務める同シリーズのうち、一月に『第一三巻 西アジア・南アジアの帝国 一六——一八世紀』を責任編集・分担執筆、一月に『第二巻 古代西アジアとキリスト教』を責任編集。

◆藤縄康弘
『ドイツ語学への視点、ドイツ語学からの視座——成田節教授退職記念論文集』カンミンギョン、時田伊津子、藤縄康弘編 同学社 三月 三八〇〇円

ドイツ語の世界を見る視点と、ドイツ語から見る言語の世界を明らかにする一六編の論文集。

◆星
『チベットのみかしばなし しかばねの物語』星泉編訳 蔵西絵のら書店 九月 一六〇〇円

しかばねが語る話が多分に面白くても、主人公は口をきいてはいけない。親しみやすい日本語と挿絵で味わうチベットの昔話。

◆舛方周一郎
『命が経済か——COVID-19と政府の役割』岩崎正洋編著 勁草書房 二月 三三〇〇円

世界同時に経験したパンデミックを社会科学はいかに研究対象としたのか。ブラジルを事例に寄稿。ほか五月に『Non-Western Nations and the Liberal International』

Order: Responding to the Backlash in the West (Routledge) に分担執筆。

◆松永泰行

『イスラームの内と外から——鎌田繁先生古稀記念論文集』 森本一夫、井上貴恵、小野純一、澤井真編 ナカニシヤ出版 三月 八〇〇〇円

イスラーム神秘主義とその周辺をめぐる研究の最新の成果を集めた論集に、革命後のイランについて寄稿。

◆三代川寛子

『シリーズ・中東政治研究の最前線 四 エジプト』 中村寛監修 横田貴之編著 ミネルヴァ書房 二月 四五〇〇円

「アラブの春」以降の動向や日本との関係を検証。マイノリティ問題について分担執筆。一月『イスラーム文化事典』（丸善出版）に寄稿。

◆村津蘭

『キニア湾の悪魔——キリスト教系新宗教をめぐる情動と憑依の民族誌』 村津蘭著 世界思想社 一月 四八〇〇円

写真や映像、エッセイを交え、霊と呼ぶ人々の生に迫る。ほか三月に『拡張するイメージ——人類学とアートの境界なき探究』（亜紀書房）を共編著。

◆塚月幸十

Learner Corporal Construction and Explorations in Chinese and Related Languages. Howard Hao-Jan Chen, Keiko Mochizuki, Hongyin Tao 編 Springer 四月

中国語や関連する言語におけるコーパスについての論考。

◆山口裕之

『映画に学ぶドイツ語』 山口裕之著 教育評論社 六月 二〇〇〇円

映画のセリフからリアルなドイツ語を学ぶ。古典的名作から映画賞受賞作品まで、ドイツ映画史もわかる。

◆山越康裕・渡辺己

『類型論から見た「語」の本質』 沈力編 ひつじ書房 三月 六八〇〇円

西洋言語研究の前提として扱われてきた語について、類型論の視点から問い直す本書を分担執筆。

◆幸松英恵

『初中級からはじめる日本語プロジェクト・ワーク』 幸松英恵、渡辺陽子著 くろしお出版 三月 一八〇〇円

日本に関する社会的・文化的テーマへの理

解を深めながら、日本語の運用力を身につけるテキスト。

◆吉田ゆか子

Anthropology through the Experience of the Physical Body. Kaori Fushiki, Ryoko Sakurada 編 Springer 二月

人類学の観点から、身体はどのように概念化されてきたのか、最新の成果を紹介する。

◆吉崎知典

『NATO(北大西洋条約機構)を知るための71章』 広瀬佳一編著 明石書店 二月 二〇〇〇円

NATOの組織構造、歴史、拡大する機能・加盟国などを、各分野の専門家が解説する本書を分担執筆。

◆米谷史史

『アジア人物史 第二巻 世界戦争の惨禍を越えて』 姜尚中総監修 青山享ほか編 集英社 四月 四一〇〇円

アジア通史シリーズの本書に、戦時下の知識人について分担執筆。